

地方独立行政法人青森県産業技術センター
第3期中期目標期間終了時見込業務実績評価書（案）概要

1 項目別評価

(1) 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上

① 試験・研究開発の推進と成果の移転・普及

4：中期目標を達成

【工業部門：4】【農林部門：4】【水産部門：4】【食品加工部門：4】

<主な実績>

【工業部門】

- 農林部門と連携し「青天の霹靂」の生産性と品質向上を図るICTシステム「青天ナビ」を開発し、品質向上に向けた生産指導の効率化が図られ、食味改善や収量向上効果等の成果があった。【工総研】
- 自然由来の酵母を利用した生酏^{きもと}製法の開発や、三内丸山遺跡から分離した酵母を利用した果実酒の小仕込み試験等を行い、県産酒類の商品化を支援した。【弘工研】
- 人がボートで行う湖沼などの水質調査をドローンで行うため、吊り下げ装置やドローン用の小型採水器などを開発し、下北豪雨災害や水産部門における環境調査で活用した。【八工研】

【農林部門】

- 水稲品種「はれわたり」ほか3品種を登録出願し、「はれわたり」については生育特性を明らかにし、栽培マニュアル作成に活用したほか、食味ランキングで「特A」に評価された。【農総研】
- 従来のにんにくに比べ、りん片が大きく多収の新品種「青森福雪」を品種登録出願したほか、ながいも栽培における先端技術の導入等の技術を確立した。【野菜研】
- 耐性菌の発生したリンゴ黒星病について、新たな防除体系を確立して普及に移したほか、新規薬剤の農薬登録について県と連携し早期に実用化し、黒星病防除体制の強化に貢献した。【りんご研】
- 黒毛和種の種雄牛「忠^{ただみつやす}光安」、「幸紀^{さきはな}花」及び「寿優^{としゆうふく}福」の肉質を評価する現場後代検定を行い、優れた産肉能力を持つことを明らかにし、基幹種雄牛の指定につなげた。【畜産研】
- 青森さくらげ「青AK1号」の品種登録出願を行ったほか、無花粉スギ3品種が（国研）林木育種センターの優良品種として認定され、種子等の配布により苗木生産が開始された。【林業研】

【水産部門】

- マツカワの種苗量産化技術の開発を進め、目標1万尾生産に対して7.7万尾の種苗生産の大幅に増加させた。【水総研】
- 海面養殖サーモンの稚魚に標準の150%の給餌を行うことで、ふ化後10か月間で海面養殖用種苗として利用できる成長促進技術を開発し、下北豪雨災害にあった養魚場へ技術移転した。【内水研】

【食品加工部門】

- 加工原料代替候補魚種の提案や簡便性に重点をおいた製品開発支援を行い、支援商品の1つ「深浦サーモン棒寿司（株）ディメール」が全国レベルの表彰において最高賞となる農林水産大臣賞を受賞した。【食総研】
- 規格外の夏秋いちごやミズダコの内蔵などの未・低利用資源を利用した栄養摂取をサポートする加工食品や機能性成分を含む加工食品等をマニュアル化し、企業の製品開発に貢献した。【下北研】
- 黒ニンニクに含まれるGABAや赤キクイモに含まれるイヌリンを対象成分とした機能性表示食品届出の支援や、ヤーコンの加温処理製法を事業者と共同で特許出願した。【農加研】

② 産業活動への総合的な支援	3：中期目標をおおむね達成
<p><主な実績></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産事業者及び関係団体等から4か年で15,051件の技術相談について、電話や研究所への来所等により指導した。 ・「高保水性プロテオグリカン」などの特許権や水稻新品種「はれわたり」などの優良種苗について、新たに権利の使用を許諾した。 	
③ 試験・研究開発の取組状況等の情報発信	4：中期目標を達成
<p><主な実績></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページによる研究成果等の情報発信として、新たな動画を追加するなどして4か年で1,325回行ったほか、新聞やテレビ、ラジオ等多様な広報媒体を用いて試験・研究開発の取組状況等をPRした。 ・水稻、花き、野菜の生育状況やりんごの開花予測、陸奥湾の海況など利用者にとって有益となる幅広い分野の情報をホームページで迅速に提供し、アクセス数が4か年で1,694,390回（目標達成率212%）と目標を大幅に上回った。 	
(2) 業務運営の改善及び効率化	3：中期目標をおおむね達成
(3) 財務内容の改善	3：中期目標をおおむね達成
(4) その他業務運営	3：中期目標をおおむね達成
2 全体評価	
<p><u>中期目標をおおむね達成している</u>と評価し、業務運営の改善その他の措置命令事項はない。</p>	